



## 「陽響学年」89名が旅立ちました

3月11日（土）、第38期生卒業証書授与式を挙りました。89名の卒業生が、4月からの新たな進路に向けて旅立ちました。1、2年生の先輩たちに対する「心づかい」が感じられる、感動の式となりました。

卒業生はもちろん、在校生のこの1年間の成長が伝わってきてうれしくなりました。（式辞の内容を裏面に掲載しております）

## 令和4年度 修了式を行いました

本日、令和4年度修了式を行い、翠翔学年、輝昂学年の皆さんに修了証を授与しました。

長引くコロナ禍ではありましたが、多くの活動や体験を通して心身ともに大きく成長できた1年でした。

式では、生徒の皆さんに次のことを伝えさせていただきました。

比較的、雪が少ない冬でした。ここ数年では、雪融けも早いようです。翠翔学年、輝昂学年の皆さん、それぞれの学年の課程の修了おめでとうございませう。

この1年間、イメージ通りに自分を成長させることができたでしょうか？年度初めの自分と今の自分を比べてみてください。そして、イメージ通りに成長できた点と、できなかった点を明らかにし、自分の行動の何が良くて、何が悪く足りなかったのかを分析して、次の学年の自分に生かしてください。

さて、私たちは「何のために学ぶのでしょうか？」。このことは、2年生には、1年生の時の“冬休み前集会”で、冬休み中に考えてほしいと話題にしたことがあります。私は次の3つだと思っています。

1つ目は、「なりたい自分の幅を広げるため」。2つ目は「将来、本当になりたい自分を見付けるため」。3つ目は「なりたい自分が見付かった時に、なりたい自分に確実になるため」。いかがでしょうか？皆さんも春休み中に、自分が学ぶことの意味を自分自身に問い掛けてみてください。

先日、ある本を読んでいてドキッと

する言葉に出会いました。それは「人間にとって、苦悩（苦痛）に負けることは恥ではない。快樂に負けることこそ恥である」という哲学者パスカルの言葉です。皆さんの春休みが、ゲーム機やスマホなどが持つ快樂に負け、支配されないように願っています。

明日から19日間の春休みになります。自転車を利用する機会も増えてくると思います。いつもお願いし続けてきましたが、「命を守ることを最優先させる」ということを、いつでも、どこでも、どんな時も忘れないでください。そして4月6日、全員で元気に進級しましょう。

令和4年度も、終息に至らないコロナ禍の1年でした。PTA授業参観の中止や、突発的な臨時休業等、数々の変更が余儀なくされ大変にご迷惑をおかけしました。ご家族の皆さまの、いつも変わらぬご理解とご支援に深謝申し上げます。ありがとうございました。

## 校札を修繕していただきました

本校の来賓・職員入口横には、ケヤキ材に角館を象徴する樺細工をあしらった立派な校札が掛けられています。これは、昭和50年度卒業生（統合前第18期生）凌雲会の方々より、中学校卒業30周年を記念して平成18年に贈呈していただいたものです。

以来、長い年月を経て、樺の校名文字の一部がはがれかかっておりましたが、先日、凌雲会の方々が修繕し化粧直しをした校札を再設置してくださいました。

地域には、このように角館中学校を、角館中学校で学ぶ皆さんを応援して下さる方々がたくさんおられます。来年度以降も、そのような地域の方々から、「角中があつてよかった」と感じていただける学校を創造し続けてください。

## 受賞・栄光の記録

### ◇第62回全県書きぞめ展

- ・銀賞 田中 絢 菜
- ・銅賞 門脇 愛 来
- ・銅賞 佐田 史 穂



### ◇NORTH UNITED LEO カップ

- ・男子バスケットボール部 優勝

かすかに雪融けの水の音が聞こえます。ここ小倉の里にも、春の兆しを感じられる頃となりました。大地の鼓動や精気がみなぎるこの佳き日に、保護者・ご家族の皆様に見守られながら、仙北市立角館中学校第三十八期生卒業証書授与式を挙げていただきますことに感謝申し上げます。ありがとうございます。

ただ今、卒業生一人一人に卒業証書を手交しました。凜とした表情で堂々と受け取る姿に、三年間の確かな成長が凝縮されていたように感じられました。陽響学年の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

思い起こせば、新型コロナウイルスの影響で、入学後すぐの全国一斉臨時休業に始まった中学校生活でした。最近になって、ようやく明るい出口の兆しを感じられるようになってきました。この三年間、自分と周囲の人達の命、健康や安全を確保するための対応とは言え、たくさんの困難、不便や我慢を経験しました。時には理不尽を感じたこともあったはずですが、しかし、その一つ一つが、周囲の状況に惑わされずに感情や行動をコントロールしながら責任ある適切な行動がとれるという皆さんの自律心を磨き、他者と互いに支え合い励まし合いながら協働することの価値と喜びを教えてくださいました。一方、心無い差別や偏見、誹謗中傷などは愚かな行為であることや、多様性を尊重することの重要性にも気付かせてくれました。何よりどのような状況であっても、人懐っこい笑顔で前向きな皆さんの姿に、学校や地域がどれだけ助けられたか計り知れません。

「兆」～切り拓こう煌めく道～のテーマの下、学校生活を自分たちの手でより充実させ豊かにするために、一人一人が当事者意識を持って活躍してくれた生徒会活動。郡市内はもちろん、県下、東北、全国に“角中”の名を響かせた部活動。その裏には、勝敗や受賞とは別に、皆さんだけが知っている何物にも代え難い秘話や物語があったと思います。いつまでも皆さんの心に残る、大切な宝物です。また、校内記録会・駅伝大会、初めての試みとして有志を募って生徒会執行部と協働で企画・運営した“すずかけ祭”、合唱コンクールなど学校行事でも、常に力強く背中の一、二年生を導いてくれました。そのようなたくましい皆さんの姿は、常に後輩たちの憧れであり、目標でした。陽響学年89名の皆さんは、伝統ある角館中学校に新たな歴史を上書きしてくれました。ありがとうございました。

今日は皆さんにとって中学校生活を終える日であると同時に、新たなステージに向けて旅立つ日でもあります。そのような晴れの門出にあたり、一つのメッセージと一つのお願いを伝えたいと思います。

メッセージは、「今日を、一瞬一瞬の今を大切にしよう」ということです。

どのような過去も、次に生かすことはできても変えることはできません。未来のことをいくら心配しても、そこには行くことができません。何かできるのは今日であり、今しかありません。未来の自分を助ける人、それは今の自分です。人生は一瞬一瞬の今の積み重ねとも言えます。皆さんには、今日を今を大切に積み重ねながら、自分自身のいつも通りや当たり前前の幅を広げ、根を深く伸ばし、どのような社会の変化にも揺るがない骨太の大人になってほしいと思います。

願いは、「関係人口・応援人口として未来のふるさとを支えてほしい」ということです。

皆さんの中には、強い覚悟をもって、四月からの活躍の舞台をふるさとを離れた場所に決めた仲間もいます。三年後や更に先には、同じような仲間が増えるのかもしれませんが、もちろん、ふるさとに住み定住人口として直接地域を支えてくれる仲間もいるでしょう。今年度の仙北市全体の出生数が70名を下回る見通しのようです。衝撃的な数値です。皆さんには、将来どこで生活していても心の重心をふるさとに置き、自分なりの形で応援や貢献ができる関係人口・応援人口として、ふるさと仙北市、角館を支え関わり続けてくれることをお願いします。

さて、保護者の皆様、お子様の義務教育修了おめでとうございます。たくましく成長した姿を前にし、ここまでのご苦労や喜びが浮かび、感慨もひとしおのことと存じます。お子様を励まし、支え、共に歩んでこられた御苦労に敬意を表しますとともに、この間、本校の教育活動に対しまして、皆様から頂戴したご支援に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。角館中学校は、これからも地域とともにある学校として、地域の方々から「角中があってよかった」と感じていただける学校を創造し続けます。引き続き、変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

結びになりますが、「陽響学年の皆さん、角中でよかったですか?」。今はもちろんですが、この後の歩みの途中でも「角中でよかった」と心から感じられる瞬間が訪れてくれれば幸いです。「角館中学校は、皆さんがいつでも、どのような時でも、帰ってこられる場所の一つです」ということを卒業生の皆さんに伝え、式辞とします。